

「中種子町立中種子中学校」の実践紹介

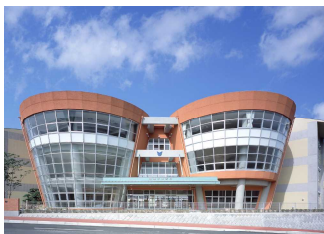
効果が期待される取組



- ◎ 平日の全部活動休養日を毎週水曜日に統一・設定することで、
 - 1 十分な事務処理時間の確保
 - 2 落ち着いた中での校内研修や教科部会等の実施
(生徒は完全下校している状態)
 - 3 第2・4水曜日の「完全定時退庁日」の厳守の効果がみられる。

実施前の課題

昨年5月の平均超過勤務時間は、51時間36分、最長時間は、79時間であった。
 定時退庁日は、月末の水曜日1回のみ実施していたが、その定時退庁日もなかなか守られていなかった。
 また、平日の部活動休養日も各部活動に任せていたので、休養しているかどうか把握しづらかった。



実施後の成果

「完全定時退庁日」を職員朝会、週行事、校務共有システム等で教職員に啓発している。教頭は、退庁時刻15分前から職員室で全職員に明るく元気に退庁準備の呼びかけを行っている。
 今年5月の平均超過勤務時間は37時間26分、最長時間は46時間と大幅に改善した。
 職員は、定時退庁することにより心身のリフレッシュができ、業務改善が大幅に図られている。

業務改善を目指した取組

- 1 昨年度途中の7月から、平日の部活動休養日を、「水曜日」に統一した。
 ⇒定時退庁日のスクールバス(SB)を16:40の1便のみに変更した。
 ポイント→ 校長が新しく着任し、4月の様子を見て、業務改善の必要性を実感。早速、連休明けの5月中旬から、十分な時間を確保し、①「業務改善に部活動指導が妨げになっていないか」②校長からの提案として、「平日の部活動休養日を統一する必要があるのではないか」③「では、何曜日を、全部活動休養日にすべきか」を職員に話し合いをさせて、全職員で折り合いを付けた。
 ①昨年度→第4水曜日のみ、②今年度→第2・4水曜日、③来年度→毎週水曜日
- ◎「帰りの会」終了後、各学年主任に各階の窓締めを行ってもらい、教頭は職員室で帰宅を促すことに専念。最終的に、教頭が16:48、正面玄関を施錠し退庁している。
- 2 定期テスト1週間前の部活動停止期間→生徒を16:40下校、SBの2便目廃止。
- 3 長期休業中→日曜日の午後のSBの廃止。
(部活動は、土曜日の午前または午後、日曜日の午前の練習3時間15分後にSB出発)
- 4 長期休業中→校舎解錠時刻を、①昨年度 7:30、②今年度 7:50
SBが8:00到着のため、教頭がゆっくり出勤し、業務改善となっている。
- 5 水曜日のC校時→生徒下校14:55【職員朝会なし、作業なし、6校時カットの工夫】
15:00から職員会議、職員研修、学期末事務処理時間、教科部会等を行う際は16時30分で会を終了。放課後は、生徒会活動やPTA行事等はいれないことにしている。
- 6 企画委員会は毎週実施していたものを、原則、職員会議2週間前の1回のみとした。特例として、積み残しがあった場合のみ、職員会議1週間前に再度実施することになっている。
- 7 2校時の休み時間を15分間から10分間とし、放課後、生徒との対話の時間を少しでも長く確保している。
- 8 パソコンソフトOne-NoteやSee-Smileによる職員会議や職員研修、職員朝会等の資料の完全ペーパーレス化を実現し、通知表や指導要録も電子化させている。
- 9 職員研修時にOne-Noteによる話し合い活動を実現している。

6.1 職員会議

2020年3月2日 13:47	
議 題	
7月行事	7
※8月行事	
図書選定委員会 (松下)	
新体力テスト 実施方法 (蔵坪)	
学校関係者評価委員会 (教頭)	
性に関する指導 (政元・潮)	
期末テスト(日程表) (蔵坪)	
授業参観・学級/学年PTA/地域PTA (教頭)	
学校保健委員会 (潮)	

One Noteによる「職員会議議題」

今後の課題、計画

- 業務改善をより一層図り、超過勤務時間を全職員35時間以内をめざす。
- 来年度は、毎週水曜日を「完全定時退庁日」に設定する。